

～ありのままに地域で生きる～

文部科学省特別選定

『風は生きよという』

上映会&講演会

4月2日(土) 13:30~16:10

開場13:00~ (入場無料、先着80名)

調布市市民活動プラザあくろす あくろすホール

調布市国領町2-5-15(国領駅前西友上)

第1部 13:30~14:55
主催者あいさつ・映画上映(字幕付き)

第2部 15:10~16:10
講演会 映画出演者・呼ネット代表
小田政利氏

主催: CIL ちょうふ
後援: 調布市教育委員会
調布市社会福祉協議会



お問い合わせ とあ CIL ちょうふ たんかつ あきもと 担当 秋元
〒182-0036 ちょうふしとびたきゅう 調布市飛田給1-13-9 ちょうふ シャトレー又調布101
でんわ 電話 042-446-0683 メール cilcho-fu@jcom.home.ne.jp

映画紹介

呼吸器から吹く風に乗り、つながりあう人と人との物語。

もしもあなたが、病気や障害のために身体を動かせなくなったとしたら、
どんな人生を想像しますか？

映画が映し出したのは、ふつうの街でふつうの生活を送る人びと。

特別なことといえば、呼吸するための道具・人工呼吸器を使用していることくらい。

人工呼吸器。ひと昔前、それは巨大な鉄の箱で出来ていた。

こんなものに頼るならいっそ死んだ方がましー そう思われるには、十分すぎる見た目だった。

いま、呼吸器はお弁当箱に様変わり。

散歩も旅行も買い物も、ひとり暮らしさえも可能にしてくれた。

呼吸器からは、休みなく空気が流れてくる。「シュー、シュー」と、まるで風のように。

淡々とその生活を映し出し、歩んできた人生を見つめた時、浮かんできたのは日常の尊さ。たくさんの支援
が必要だからこそ、多くの人に会え、自由に動くことができないからこそ、生きてあることに感動する。

じんわりとこころを揺する、人と人との織りなす物語。

もしもあなたに、思うように身体を動かさない、そんな日が来た時は思い出してほしいのです。

映画の中を駆け抜けていた、風の音を。

その風に包まれた人と人との、支えあいながら生きていたことを。

2015年/日本/81分/ドキュメンタリー

(『風は生きよという』上映実行委員会ホームページより)



講師紹介 小田政利氏

1968年東京都出身。幼児の頃に筋ジストロフィーを発症し、小学4年生で車いすの
使用をはじめ。29歳の時、酸欠で意識不明となり、気管切開をして人工呼吸器を導入。

両親は他界し、33歳でひとり暮らしをはじめ、24時間介助者が本人の指示のもと手足の代わ
りとなる。現在は、東京都北区にある自立生活センター・北の代表、NPO法人ピアサポート・北
の理事長を務めている。「呼ネット」の代表も務め、夜は仕事の疲れを癒すために居酒屋で1杯
か、自宅でテレビを見ながら食事。何か月も引っ越しの荷物が段ボールに入ったまま。

探し物からはじまる毎日を送る。